

はじめに

熊本市のほぼ中心部に位置し 10 分も歩けば繁華街まで行けるという旧研究所の立地環境とは対照的に、周囲には田園地帯が広がる現在の場所へ当研究所が新築移転してから、早いもので四半世紀が経過しました。

自然に恵まれ閑静な環境の中での業務は、時に心に安らぎを与えてくれるものがあります。静かな環境に囲まれたこの地では、毎年、春になると鶯の鳴き声がどこからともなく聞こえ、敷地内に咲き誇る桜花が心を和ませてくれるとともに新たな気持ちで新年度を迎えさせてくれます。

ただ、本年はそのような気持ちの余裕もなく、昨年 12 月に中国武漢に端を発して全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症への対応に職員一丸となりあたってきたところです。現在、新型コロナウイルス感染症に対する治療薬やワクチンの開発が進められていますが、未だウイルスとの戦いの終結時期は不透明です。そのような中、当研究所は県民の安心安全を確保するため、引き続き他機関等とも連携・協力しながら検査体制の充実・強化に取り組んで参ります。

さて、当研究所は、地域保健、公衆衛生、環境保全に関する科学的・技術的中核として、専門的な技術や知識を駆使し、県民の健康及び地域の環境を守るための調査研究に取り組んでいます。

この所報には、SFE 抽出液の精製・濃縮を省略することで、より多くの農薬成分分析を可能にした GC/MS/MS による農産物中の残留農薬一斉分析法の開発、県内の微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 測定局配置の適正化を行うために全国に先駆けて実施した空間濃度予測手法 (Regression Kriging 法) による PM_{2.5} の空間濃度分布の推定、本県独自の水環境評価法により長年調査し蓄積されたデータの群集生物学的手法を用いた解析結果から見えてきた課題など、令和元年度にまとめられた調査研究の成果を収載しています。関係者の皆様には、是非とも御高覧いただき、忌憚のない御意見を頂戴いただければ幸いです。

最後に、平成 28 年熊本地震発生から既に 4 年が経過し、住まいの再建、阿蘇へのアクセスルート回復等の創造的復興が進む中、7 月 4 日に県南地域を中心に発生した甚大な豪雨災害により 65 名の方々の尊い命が失われ、自然の猛威を改めて思い知らされました。被災された方々に御見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたします。

令和 2 年 10 月

熊本県保健環境科学研究所
所長 西村 浩一